平成25年度　未来を拓く「学び」推進事業　授業者振り返りシート

授業日時/教科・単元　平成２５年１０月１２日（土曜日）/国語総合

授業者　板谷大介　　教材作成者　板谷大介

1. 生徒の学習の評価（授業前後の変化）

（１）3名の生徒を取りあげて、同じ生徒の授業前と授業後の課題に対する解答がどのように変化したか、具体的な記述を引用しながら示して下さい。実技教科等で生徒の直接の解答が取れない場合は、活動の様子の変化について記して下さい。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 生徒 | 授業前 | 授業後 |
| １ | 人間は苦しみの理由を考える。現代で言えば、いじめを受けている子供は特に考えるのではないだろうか。自分がなぜいじめられるのかという  （以下60分の時間切れにて余白） | 苦しみの無意義とは、現代で言う生きる意味の喪失である。現代日本においては、急激な科学技術の発達、親達の過剰な子供への保護により、思考力の低下が著しくなった。思考力を無くされた子供たちは、生きる目的を見出せず、ただ真の苦しみを知らぬままに時代の流れに身を任せているだけである。  　真の苦しみが無い人生はただの自然現象であり、惑星が太陽のまわりをまわるのとなんら変わりない。では、どうしたら自己の存在の意義を見出せるのか。それには強い意志を持って苦しむほかない。ニーチェはこのような人々のことを超人と呼んでいるが、これが個人で実践できる人間がいったい何人いるだろう。  　では、ニーチェがいう言葉が現代日本で指し示す意味とは何か。それは、団結せよ、ということに他ならない。強固な意志を共有し合い、確かめ合うことで、人々は生きる意味、信念を形成し、希望へ到達することが出来るのである。 |
| ２ | 私は「苦しみの無意味」とは意味をなさない苦しみ、空虚な苦しみだと考える。根拠は人生生きていれば困難に幾度となくぶつかる。その度に私たちは苦しみにさいなまれる。中には絶望的になり、命を絶ってしまう者もいる。しかし、その苦しみは『道徳の系譜』でもあるように「苦しみその  （以下60分の時間切れにて余白） | 私は人間とは自己の成長のために苦しみを追い続ける動物だと思う。苦しみを求め、考えることによって人間は成長できる。ところが、苦しみの無意義、つまり苦しみに何の意味もないという考えが蔓延したことにより苦しみの意義を考えなくなった。能動的に自らそれについて考えず、意味が示されるものだと思い込み受動的になってしまった。もともと自ら苦しみを負い続けて考えることで成長してきた人間は苦しみの意義を考えなくなったら人類の成長はストップしてしまうのではないだろうか。ニーチェはそこまで見据えて自分で苦しみの意味を考えろということを主張しているのではないかと思った。  　今日、人々は苦しみの意味を考えているのだろうか。様々な問題を抱えている日本はもっと積極的に苦しみを追い求めて考え続けていくべきだ。 |
| ３ | ここに苦しみがあって、それを乗り越えたとする。  　まず、その結果が自分にとってプラスにはたらいたとき、乗り越えた苦しみは初めて意味を持つ。例えばマイナスにはたらいても同じことがいえる。なぜ同じかというと、どちらも苦しみの先に何かを得たり失ったり、現状に「変化をもたらした」からである。さらにそれが不都合ではない理由を言うと、わたしは、変化の無いものに発展は無いと考えているからである。例として、戦争自体はマイナスにはたらいたが、結果工業は大きく発展したことが挙げられる  　もし、苦しみの先に何の変化も無かったらどうだろう。そこには発展どころか、苦痛しか残らない。そうするとその苦しみは何も変化をもたらさなかった、つまり無意義だといえる。また、無駄であったともいえる。  　現代の日本において、「無駄」は大敵であり「不都合」である。 | まず、苦しみとは何なのか。現代の日本においてそれはたくさん存在すると思う。それ全てに共通するのはその先に何か変化があるということだ。  　それでは苦しみの無意義とは何なのか。それを大きく左右するのは「強い意志」だと思う。たとえば何か苦しみがあったとして、それを終えた先に結果がある。このとき感じた苦しみを結果を求めるための手段であったと思えるかどうか、ということである。もしそう思えたとしたらその苦しみは達成感へと変わり、無意義ではなくなるのだ。  　しかしどうだろう。現代の日本において、強い意志というものは多くは存在しない。むしろ苦しむことを避けて更に大きな苦しみを抱えている人がたくさんいる。それでは負の循環がうまれてしまう。だから、現代社会をよりよくするために一人ひとりが強い意志を持つことが求められているのである。 |

（２）生徒の学習の成果について検討して下さい。授業前、授業後に生徒が答えられたことは、先生の事前の想定や「期待する解答の要素」と比べていかがでしたか。

　生徒の最後の回答・解答は授業者の期待に十分応えるものであった。

　多くの生徒が、当初の答案よりも、１ランク、２ランク上の答案を仕上げていた。最初はいくら考えても全く筆が進まなかった生徒も、上記のように立派な答案を書いている。

　字数の分量的には、変わらないか、逆に少なくなったものも見られたが、内容的には、格段に深まり、きらりと光る言葉、注目させられる内容を盛り込むことに成功しているものも多く見られた。

　教科書などの優れた文章、優れたテクストに触れ、テクストとの格闘、テクストと学習者との対話、テクストを通じた生徒同士の対話、あるいは生徒と教師の対話により、普段から思考力を鍛える訓練を重ねていけば、それがそのまま受験に十二分に通用するのであり、大学受験は学校の勉強の延長、あるいはある種の区切り、ある種の仕上げとして存在するのであり、何か学校の勉強とは別な、特別な訓練を必要とする、あるいは訓練をしたほうが有利である、というしばしば世間に流布している思い込みは誤りであることを浦和第一女子高校の生徒は力強く、頼もしく証明してくれた。

　日本の将来に、そして世界の未来に、明るい希望をもてた気がする。

　なお、生徒の中には、少数ではあるが、最初に書いた答案のほうがよく、最後の答案のほうがまとまりを失っているように見えるものもあった。これは、生徒が他者の言葉、他者の存在に触れることで、彼女の世界に対する認識の仕方、認識の枠組みに変容を来したことの証であると推察する。

　しかし、他者を感じず、他者の言葉に耳を傾けずに成長することは好ましくない。そこに誕生するのは謙虚さに欠けた、傲慢な人柄の人物である。しかし生徒らは、今回の経験を踏まえた上で今後とも自我を再構築してゆくことであろう。それには時間が必要である。季節がめぐり、彼女達が高校３年生になった頃には、むしろこれらの生徒達のほうがもっともっと深い内容の、そして魅力ある内容の論述を行う人になってくれるであろうと信ずる。

1. 生徒の学習の評価（学習の様子）

生徒の学習の様子はいかがでしたか。事前の想定と比べて、気がついたこと、気になったことをあげてください。

　言葉の使い方を間違ったり、勘違いをして話しをしている生徒もいたが、それらは枝葉末節であり、問題の本質に迫っていく上ではそれほど問題ではなかったと考える。

　どのグループもよく対話を行っていたが、授業予定より、課題に応答してゆくのに時間がかかっていたように思われる。これは、教材作成者が、思い入れたっぷりの、盛りだくさんの課題を生徒に課したからかもしれない。

　内容にもよるが、優れた文章、優れたテクストを生徒に提示する場合は「これでは時間をもてあますのではないか」と思われるぐらいが逆にちょうどよいのかもしれない、と感じた。

　また、優れたテクストについては、必ずしも「すとんと落ちる」必要はなく、多少のモヤモヤ、消化不良を抱えたまま授業を終えてもかまわない気もした。深い文章、とはそういうものである、と。

　そのモヤモヤは何年も、十年、二十年も経過し、生徒達の心の中で様々な形で温存されながら、時に「あの文章はもしかしたらこういうことだったのか」というように生きるヒントを与えてくれるのかもしれない。

1. 授業の改善点

　生徒の学習の成果や学習の様子を踏まえ、次の3点について今回の授業の改善点を挙げて下さい。

1. 授業デザイン（課題の設定、エキスパートの設定、ゴールの設定、既有知識の見積もりなど）

上記のようにエキスパート活動の資料の分量がやや多かったかもしれないと感じる。あるいはもっと時間をかけるべき教材の分量となっていた。

1. 課題や資料の提示（発問、資料の内容、ワークシートの形式など）

**研究員として事前のシュミレーションを十分行った**甲斐があり、特に問題はなかったと思われる。

1. その他（授業中の支援、授業の進め方など）

協調学習、知識構成型ジグソー法の授業、生徒自身が自らさまざまなことに「気づき」、生徒の発想力、着想力を磨ける授業、生徒同士の対話を重視した授業、生徒と教師の双方向的な授業、を私自身、そして、本校、浦和第一女子高校としても一層増やしていくことが課題である。

そのような課題意識のもと、ただいまわたくしは、国語総合の短歌の単元を協調学習の手法で行っている。近くそのワークシートもネットコモンズ上にアップしたい。

また、今年度の本校に手の研究授業後の協議の場でも申し上げたとおり、もっともっとアイディア、教材を共有しあい、より多くの先生方に研究員をはじめとする人びとが作成した既存の協調学習の教材をどんどん使って頂きたいと痛感する。「人が作ったものを無断で使うのはよくないのではないか」などと思わずに、気軽にチャレンジして欲しい。逆にどんどん使っていただくほうが嬉しいのである。

そうして、出来れば授業をした後に「うちの学校ではこうでした」とか「うちの学校の実情にあわせて○○の教材を○○のように手直しして使ってみました」などのような声を是非聞きたい。「成功しました」とか、「失敗しましたが、その原因はたぶん○○なので、そこを○○のように改善してチャレンジします」などのざっくばらんな話が行きかうことが望ましい。そしてそれらのリニューアル、リメイクされた教材を次々にアップし、協調学習の教材があふれんばかりに満ち満ちることが本事業の目指すところであろう。